

《図工科における授業改善推進プラン》

I 図工科における平成30年度授業改善推進プランの検証

〈取り組みにおける成果と課題〉

- ◎ 児童が進んで学習に取り組むために、教科横断的な視点から授業の工夫を行った。
- ◎ グループワークを取り入れた授業の設定から、児童の主体的・対話的な学びの場づくりを図った。
 - ▼ 教科横断的な題材から児童は意欲的に取り組んではいたが、自ら主題を見つける、進んで工夫を行うというような主体的な姿は少なかった。
 - ▼ グループでの取り組み方について、よりよい話し合いや活動の進め方を指導し、全員が役割や使命感をもち、充実感を得られる授業づくりを行う。

II 図工科における現状の分析

観 点 別 学 習 状 況 の 分 析	1 造形への関心・意欲・態度 (1) 意欲的に学習に取り組む児童が多い。実技研修等を通し、更に児童の意欲・関心をかき立てる題材研究を行っていく。
	2 発想や構想の能力 (1) 自由度の高い課題になると手が止まってしまう児童がいる。鑑賞教育を通し、つくりたい作品のイメージをもつ力を養う。
	3 創造的な技能 (1) 自らの思いや発想を基に、表現に取り組んでいる。材料・用具を扱う中での発見や発想から表現を工夫する視点を養う。
	4 鑑賞の能力 (1) 作品づくりや鑑賞の時間を通して、自他の作品のよさや面白さを感じ取っている。高学年においては、作者の意図や工夫を見取る視点を更に養っていく。

III 授業改善のポイント

- 1 教科横断的な題材から児童は意欲的に取り組んではいたが、自分たちで主題を見つける、進んで工夫を行うような主体的な姿は少なかった。
→教科横断的な授業を通し、学級・学年でひとつのことを成し遂げる経験を味わわせる。プランニングから児童の発想や思いを引き出し、より主体的な学びを育む。
- 2 グループでの取り組み方について、よりよい話し合いや活動の進め方を指導し、全員が役割や使命感をもち、充実感を得られる授業づくりを行う。
→ グループでの活動は児童が意欲的に取り組むが、よく活躍する子としない子の差ができる。全員が役割や使命感をもって取り組めるよう、よりよい話し合いや活動の進め方について指導していく。

IV 図工科の授業改善策

- 1 児童の関心、意欲を引き出すために
 - 低 個々の感性を見取りながら、つくり出すよろこびを味わえる題材の工夫に取り組む。
 - 中 グループワークを取り入れた授業を多く設定し、学び合いや認め合いの精神を育む。
 - 高 教科横断的な題材を多く設定し、個々の思いや考えを見取りながら、表現の幅を広げられる工夫の仕方を提示する。
- 2 自分なりの思いや見通しをもって作品づくりに取り組むために
 - 低 道具の扱いや安全への指導を徹底しながら、手・指先を使う経験を多く設定する。
 - 中 友人との学び合いや認め合いから、自分の思い・価値観や表現の幅を広げる。
 - 高 学んだことを活かしながら発想・構想の幅を広げ、自ら工夫する態度を養う。
- 3 お互いのよさを見付ける力を伸ばすために
 - 全 正門掲示板への作品展示や展覧会などを通し、異学年の作品にふれる機会を生かす。鑑賞会で、見取りのポイントを具体的に伝える。